神奈川県立平塚ろう学校　令和３年度第３回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第３回学校運営協議会
開催期日	令和４年３月１日（金）
開催場所	書面開催
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員９名
次回開催予定日	令和４年５月下旬
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　水上 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	学校評価部会 （１）　令和３年度学校評価について 切れ目ない支援部会 （２）　切れ目ない支援部会について
審議（会議）経過	<<学校評価について>> ＜教育課程・学習指導について＞ 【意見】 ・個の発達段階を把握、このニーズをより実態に近い形で受け止められるように、それぞれの部署が努力されていいらっしゃることが伝わりました。 ・様々な工夫をされていて良いと思います。今後もトライ＆エラーで、どんどん新しいことにチャレンジしてください。 ・日本語教育は、やはり大切ですので、今後とも力を入れてお願いします。 ・幼稚部における医療的ケアの立ち上げをはじめ、それぞれの学部で重複障害児への指導支援について取り組まれている様子が推察されました。幼児児童生徒への教育の充実に向けて引き続き個別教育計画に基づく指導を進められますよう期待しております。 【質問】 ・主にＩＣＴを活用され個に応じた視覚的支援に取り組まれていると思いますが、幼児・児童・生徒の反応はどうでしょうか。 【回答】 ・映像や画像、文字情報などをＩＣＴ機器を利用して提示すること

	で、授業内容の理解が促進されているように思います。ＩＣＴ機器を使って視覚的に提示するようになってから、授業に意欲的に取り組めるようになってきています。 ・＜生徒指導・支援について＞ 【意見】 ・コロナ禍において、できることを工夫して取り組まれている様子がよくわかりました。担任一人で抱えずみんなで対応していく雰囲気が広がってきたというご報告がありました。素晴らしい成果ですね。 ・ケース会の設定により担任が抱える思いを関係職員が共有し、スーパーバイザーでもって連携し、同じ方向に向かって指導されていると感じました。Ｊ．ＣＯＳＳの活用で、日本語理解の段階把握と読書推進活動の相乗効果も今後期待します。 ・「学部学年を越えた、集団活動や部活動」はろう学校の強みだと思います。豊かな心を育てていくことにつながると思います。これからも大切にしてください。 ・コロナ禍で異年齢の友達や他学部との関わりが減ってしまったとありますので、次年度は、状況を見極めて早めに様々な活動が再開されることを期待しています。 ＜進路指導・支援について＞ 【意見】 ・コロナ禍において、取り組みが難しかったと思いますが、可能な方法や内容を検討しながら必要な支援を行われたことがよく分かりました。今後とも継続したキャリア教育システムの構築を進めていただければと存じます。 ・新書式の個別教育計画となり、ご本人や保護者参加型の意思決定支援が叶うことが本来の個別教育計画であると感じています。 ・保護者アンケートの結果から、将来に対する不安が拭えていないことが伺えます。ＩＣＴのスキルや、場合によっては調理の道など将来の職業をイメージできる取り組みが求められているのかもしれません。 ・様々な職業や働き方も増えてきていますので、高等部の現場実習や企業見学、中学部の職業体験等の機会提供の充実を期待しています。 ・支援を途切れさせない工夫、市教委との連携、地域難聴学級への

	働きかけに取り組まれたことが分かりました。今後も、ろう難聴児にかかわる担当者を孤立させない支援を、ぜひ継続して進めていただきたいと思います。 ＜地域等との協働について＞ 【意見】 ・ 近い将来起こりうる災害に備えて、消火訓練に加え、ＤＩＧを行えたことは、素晴らしいと思います。平時の今だからこそ、防災対策を今一度見直す必要があります。 ・ コロナ禍でなかなか難しいかもしれませんが、生徒たちをもっと外へ連れ出して社会勉強を行う場を設けてはいかがでしょうか？ ・ 地域等との協働に向けては、地域への情報発信も大切だと思いますので、今後のホームページ等の充実を楽しみにしています。 ・ 支援を途切れさせない工夫、市教委との連携、地域難聴学級への働きかけに取り組まれたことが分かりました。今後も、ろう難聴児にかかわる担当者を孤立させない支援を、ぜひ継続して進めていただきたいと思います。 ＜学校管理・学校運営について＞ 【意見】 ・ 感染症予防対策を講じながら、幼児児童生徒への指導・支援の充実を図るという難しい課題に、よく工夫されて取り組まれたと思います。 ・ 幼児・児童生徒と向き合う時間を確保すること。お忙しい日々の中で、業務の時短、効率を考えたときにＩＣＴの活用により努力されていることが感じられます。 ・ 常に様々なことにチャレンジし、工夫している事が、保護者からも評価され、よいアンケート結果につながっているのだと思います。 ・ コロナ禍でのご苦労も多いと思いますが、非常時を想定した訓練や研修を計画的に実施されることを期待しています。 ＜その他＞ 【意見】 ・ 研究・研修係による新転任者研修が丁寧できめ細かくフォローされていることがうかがい知ることができました。 ・ 学校評価アンケート（保護者）の対象者として、職員の皆様の思いも聞かせていただきたいと思いました。

	<<切れ目ない支援部会について>> ・ 誕生前、新生児、乳児、幼児と、どのように聴覚的課題が発見され、どのように支援につながっていくのか。医療から、健診から、保健福祉・相談支援につながっていき、ろう学校の教育、指導、支援につながっていくのか。具体的に、県域、あるいは障害福祉圏域における、生育の各段階に連続した、他機関、医療・福祉・行政・学校の関係者による支援システムが構築できるといいですね。 ・ 多職種連携、医療、福祉、教育が一体となって支援を繋げていくことが重要であると身をもって感じています。貴校でも国の方針にあります医療ケア児に対する体制が整いつつある中で、医療系の方が委員にいらっしゃると心強いように感じました。 ・ すでに意見が出ているかと思いますが、生徒たちと年齢・世代の近い方で、ろう学校出身の方の意見を聞けると良いかもしれません。 ・ 平塚市では、主に児童福祉法に基づく支援をこども家庭課が、障害者総合支援法に基づく支援を障がい福祉課が担当しています。そのため、「切れ目ない支援部会」が設立した際には、庁内で情報共有を進めていきたいと考えています。